

産業別四半期見通し調査結果

(2016年10-12月期見通し)

<製造業は一部で弱さがみられるも底堅く推移、観光関連は堅調な個人客の入込みに期待>

■ 県内産業天気図

◇ 2016年7-9月期の現況

➤ 全17業種中、「薄日（順調）」が1業種、「曇り（普通）」が14業種、「小雨（低調）」が2業種となった。

◇ 2016年10-12月期の見通し

➤ 全17業種とも7-9月期と天気図記号は変わらない見込み。方向感では、「横ばい」が15業種と最も多く、「やや上昇」と「やや下降」がそれぞれ1業種となった。

天気図記号	2016年 4-6月期	7-9月期現況	10-12月期見通し
 晴れ（好調）	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日（順調）	2 業種	1 業種	1 業種
 曇り（普通）	12 業種	14 業種	14 業種
 小雨（低調）	3 業種	2 業種	2 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 10-12月期見通しのポイント




















































- 製造業のうち、「**工作機械**」をはじめ機械系業種では、中国等の景気減速の影響から一部で弱含むとみられるが、国内や海外では米国等の需要が底堅く推移していることもあり、「曇り（普通）」の水準が続く見通し。円安を期待する輸出関連企業もある一方、「**食料品製造**」など円高のメリットが大きい内需型の企業も存在することから、今後の為替の基調に変化が生じるか注目される。
- 「**ホテル・旅館**」は、「真田丸」にけん引された観光需要は徐々に落ち着きつつあるものの、引き続き個人客を中心に予約状況が良好なことから、「薄日（順調）」を維持する見通し。

照 会 先
 一般財団法人 長野経済研究所
 調査部（担当：桑井、久保田、庄田）
 TEL：026-224-0501



<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。

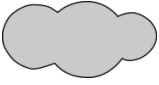
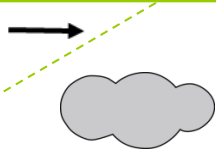
■調査期間：2016年9月中旬～16年10月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の143社

業 種	前期 (4-6月期)	今期 (7-9月期)	来期 (10-12月期)
工 作 機 械			→ 
半 導 体 製 造 装 置			→ 
産 業 用 機 器			→ 
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→ 
自 動 車 部 品			→ 
光 学 ・ 計 器			↗ 
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→ 
飲 料 製 造			→ 
食 料 品 製 造			→ 
機 械 器 具 卸			↘ 
大 型 小 売			→ 
自 動 車 販 売			→ 
公 共 工 事			→ 
民 間 工 事			→ 
旅 客			→ 
貨 物			→ 
ホ テ ル ・ 旅 館			→ 


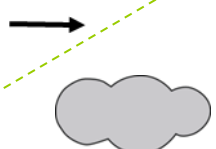
当研究所の注目業種

	10-12月期見通しの注目ポイント
<p>食料品製造</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 味噌は大手を中心に即席味噌や減塩・無添加商品の販売が底堅い上、冬場の需要期に入り鍋物等への利用が増えることから安定した推移が見込まれる。▶ 加工肉、大豆関連商品は、安全や健康などの消費者ニーズを捉えた商品が堅調に推移する見通し。乾燥食品もシリアル向け市場の拡大などを追い風に、販売量の増加を見込む。また、製粉はそば粉が年末の需要期を迎え、売上増加が期待される。▶ 一方で、これまで輸入原材料の調達コストの低減をもたらしてきた円高の基調に変化が出てくるか、注目する向きが多い。
<p>ホテル・旅館</p> 	<ul style="list-style-type: none">▶ 夏季の行楽シーズンが過ぎ、「真田丸」の集客効果は徐々に薄らぎつつあるものの、上田を中心とする関係地域では個人客を中心に堅調に推移する見通し。▶ ブライダル部門や年末に向け需要の高まる宴会部門は、安定した利用が見込まれる。▶ 新規開業に伴う競合激化や天候不順による食材価格の上昇など懸念材料もあるが、都市部・観光地とも観光客の予約状況が良好なことから、一定の収益は確保できる見通し。


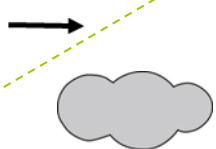
工作機械 : 海外は弱さみられるが、国内は底堅さ続く

<p>現況</p>	<p>国内は、自動車関連向けを中心に底堅く推移した。海外は、自動車生産が順調な米国やメキシコ向けでは、一部で減速の動きもあるが、総体の需要は安定していた。欧州向けは、</p>
	<p>英国のEU離脱の問題から引き合いが弱含む面もあったが、総じて底堅かった。アジア地域は、日系企業の進出が続くインドなどでは好調な状態が続いているが、依然として規模の大きい中国の設備投資が上向いていない。東南アジアは投資の盛んな地域も一部でみられるが、全体として軟調に推移した。</p>
<p>見通し</p>	<p>国内は、引き続き自動車関連向けを中心に、底堅く推移する見通し。政府の追加的な投資促進策が予定されているものの一服感も出ているため、効果は一部にとどまる見込み。海外は、</p>
	<p>北米地域の自動車生産の勢いが鈍化しており、需要はやや弱含むとみられる。欧州向けは英国の動向などが不安視されていることから、受注が伸び悩むことが懸念される。アジア地域は、インドなど好調な地域がある一方で、中国や東南アジアの設備投資の回復が遅れており、低調に推移する見通し。</p>


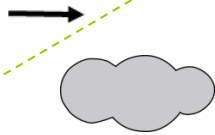
半導体製造装置 : 海外を中心に装置需要の持ち直しを期待

<p>現況</p>	<p>国内は、スマートフォンや車載用電子制御装置などに用いられる高品質な半導体の生産に動きがみられたが、従来の製造装置で対応可能なものも多く、新たな装置需要は鈍いものとなった。海外は、スマートフォン向けを中心とした半導体製造の増加により中国などで生産ラインを拡張する動きも一部にみられたが、新興国の景気減速の影響が根強く、総じて設備投資には慎重な姿勢が目立った。一方、高度に小型化・薄型化された半導体製品の生産に関わる付加価値の高い製造装置などは、受注が堅調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、スマートフォンや車載用電子制御装置向けの高品質な半導体の製造が続くとみられるが、従来以上に高度な装置を必要とする需要は少なく、全体として鈍い動きとなる見通し。海外は、例年秋以降に半導体製品の在庫調整から装置の受注が弱含むが、スマートフォン向けやIoT関連の半導体を増産する動きも一部にあるため、装置需要はおおむね横ばいでの推移が見込まれる。また、付加価値の高い半導体製造装置については、引き続き堅調な受注が期待され、収益を下支えする見通し。</p>
	


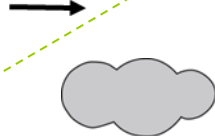
産業用機器 : 国内需要は底堅さあるも、海外は弱含む

<p>現況</p>	<p>車載関連機器は、国内はハイブリッド車向けを中心に受注は堅調を維持したが、軽自動車向けは燃費データ不正問題の影響もあり伸び悩んだ。海外は新車需要の一服感から北米向けの受注にやや落ち着きがみられた。産業用ロボットなどのFA機器は、国内は設備投資の鈍化あるものの底堅い一方、海外は新興国で景気減速の影響などから弱含む。水冷装置や空調機器などは、一定の省エネニーズから底堅く推移した。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器更新などの需要があり堅調だった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>車載関連機器は、国内はハイブリッド車向けなどを中心に堅調な受注を見込むも、軽自動車向けは弱い動きが続く見通し。海外は大幅な落ち込みには至らないものの、北米向け受注の減少が懸念される。産業用ロボットなどのFA機器は、国内は底堅い動きが続くとみられるが、海外は中国などの新興国が振るわず弱含むとみられる。水冷装置や空調機器は一定の更新需要が見込まれ、住設機器もリフォーム需要などにより堅調な推移となる見通し。</p>
	


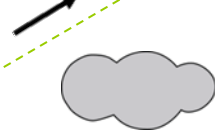
電子部品・デバイス : 自動車向けは堅調、スマートフォン向けは弱含む

<p>現況</p>	<p>自動車向けは、国内・海外ともに安全運転の支援を目的に1台あたりの電子部品の搭載量が増加していることもあり、受注は底堅く推移した。スマートフォン向けは、全体として力強さには欠けていたものの、秋の新製品の販売時期にあたり人気機種への投入があったことなどから、受注がやや盛り返す場面もみられた。パソコンおよび家電関連は、市場をけん引する商品が乏しく低迷した。一時、円高が進んだことで、収益が押し下げられ業績が伸び悩む企業もあった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは、電子部品の搭載量も増加傾向にあることから、受注量は安定した推移が見込まれる。スマートフォン向けは、予約状況が好調なこと、生産を増やす見込みの完成品メーカーもある。一方で、新型機種を投入した直後に安全性の問題から生産停止となったメーカーもあることから、全体ではやや弱含みで推移する見通し。パソコン及び家電関連は、市場を活性化するような製品の販売が予定されておらず、低迷が続く見込み。</p>
	


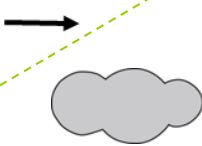
自動車部品 : 国内は弱含むも海外は底堅く推移

<p>現況</p>	<p>国内は、新型車向けの底堅い需要が一部でみられ、市場を下支えした。しかし、軽自動車向けでは燃費データを巡る不正の影響が続いたことなどから、国内全体の需要は弱含んだ。海外は、北米向けは、米国の新車販売台数が前年を下回るなど需要に一服感がみられたが、全体では底堅く推移した。中国向けは、小型車の取得に対する減税策効果が続いていることなどから、一部では前年を上回る受注となる企業もみられた。東南アジア向けは、引き続き低調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、モデルチェンジに伴う受注が下支えするが、効果は限定的とみられる。また、燃費問題の影響が残る軽自動車向けは低調な推移が見込まれるなど、国内全体の需要も弱い動きが続く見通し。海外は、北米向けは安定した受注を見込むも、完成車需要の一服感の影響が懸念される。中国向けは、減税策の効果などにより、引き続き底堅い需要が続くとみられる。東南アジア向けは弱含んで推移する見通し。</p>
	


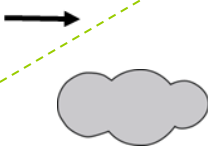
光学・計器 : プロジェクター、自動車関連が堅調

<p>現況</p>	<p>光学機器関連のうち、事業者用プロジェクター向けのレンズユニットの受注は底堅く推移した。自動車向けは北米の自動車生産が安定しており、受注も堅調に推移した。ウェアラブル端末やドローンなどの市場が拡大しており、新製品向けのレンズの受注増加がみられた。一方、スマートフォン向けはやや持ち直したが力強さに欠け、半導体製造装置向けも新興国経済の停滞から振るわなかった。デジタルカメラは低調に推移した。計器関連は、中国経済の減速から建機および産業機械向けの需要に回復はみられず、国内も低調な動きとなった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連のうち、事業者用プロジェクターのレンズユニットの受注は堅調を維持する見通し。自動車向けも堅調な推移が見込まれる。ウェアラブルカメラのほかドローン搭載用などでは解像度の高い製品で受注増加が見込まれる。半導体製造装置向けは横ばい、デジタルカメラは交換用レンズなどで引き続き弱い動きが見込まれる。スマートフォンは一部完成品メーカーで生産停止の機種もあるなど、弱含みで推移するものとみられる。計器関連は、建機は横ばい見込み、産業用は海外で半導体製造装置向けの需要増加に期待がかかる。</p>
	


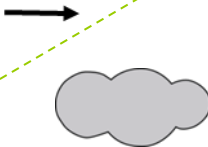
プラスチック製品 : 容器類は堅調、スマートフォン関連は生産水準引き下げへ

<p>現況</p>	<p>スマートフォン関連は、新機種向けのコネクタなどの生産が順調に推移した。一方、容器類は、飲料用や芳香剤などのペットボトルの生産は底堅かったものの、化粧品向けがインバウンド需要の落ち着きなどを背景に鈍化した。また、自動車関連のコネクタなどは、海外向けは前年並みの生産を維持したものの、国内向けは完成車需要が低調に推移したことから生産水準を引き下げた。OA・情報関連では、複写機のトナーケースなどで受注減がみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>スマートフォン関連は、新機種向けの生産が一巡し生産水準を引き下げる見通し。OA・情報関連では、一部に複写機のトナーケースの生産を納入先で内製化する動きがあり、受注の減少が続くとみられる。一方、容器類の生産は、一時の勢いはなくなったものの、一定のインバウンド需要を背景に化粧品向けは堅調に、また、飲料用や芳香剤などのペットボトルも底堅く推移する見込み。自動車関連は、低調に推移してきた国内向けがやや上向くとみられるが、生産水準を大幅に引き上げるには至らない見通し。</p>
	




飲料製造 : 清酒・ワインは需要喚起により販売量を確保

<p>現況</p>	<p>清涼飲料は、夏場の需要期に加え気温の高い日も続いたことから、茶系飲料などの需要は例年を上回ったとみられる。一方、果実・野菜飲料に関しては、需要が気温に左右されにくいことから、例年並みの水準にとどまった。清酒は、純米酒などの特定名称酒に加え、季節限定の生酒や冷酒などが底堅かった。ワインは、県産ワインに対する需要や関心の高まりから、一部の生産業者で在庫不足が発生した。飲料業界全体では、物流コストや資材価格などの上昇に対する価格転嫁の動きが鈍く、厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>ホット飲料を含め清涼飲料など全体の販売量は例年並みの水準となる見通し。そのうち、果実・野菜飲料の原材料果実の仕入れは、台風による影響はあるものの、例年並みの水準を確保できるとみられる。清酒・ワインは、ともに年末に向けて最需要期を迎える。清酒は地域の祭り需要に加え、複数の酒蔵が参加するPRイベントが各地で開催されるほか、ワインも一部地域でワイナリーを巡る循環バスを新たに運行するなど、いずれも需要喚起を図りながら新酒や人気銘柄を中心に販売量を確保するとみられる。</p>
	


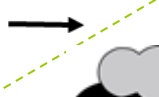

食料品製造 : 消費者ニーズを捉えた商品を中心に安定的に推移

<p>現況</p>	<p>味噌は、大手を中心に即席味噌や減塩・無添加商品が底堅く推移したほか、加工用味噌にも動きがあった。加工肉は、原材料価格が安定して推移したことに加え、無添加など安全を訴求する商品が順調で収益も改善した。大豆関連商品は、健康関連商品を中心に販売は堅調だった。コンビニ向け総菜は、行楽シーズンの観光需要などから、一部企業では販売量が前年を上回った。乾燥食品は、シリアル向け市場の拡大などを背景に好調だった。製粉は、麺類などを中心に前年並みの販売量を確保した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、需要期に入り安定した推移が見込まれる。加工肉、大豆関連商品は、安全や健康など消費者ニーズを捉えた商品が堅調に推移する見通し。コンビニ向け総菜は、安定した需要から前年並みの販売量を確保するとみられる。乾燥食品は、シリアル向け市場の拡大などを追い風として、販売量の増加を見込む。製粉は、そば粉が年末の需要期に伴う売り上げ増加が期待される。全体として、これまで輸入原材料の調達コストの低減をもたらしてきた円高の基調に変化が出てくるか注目する向きが多い。</p>
	


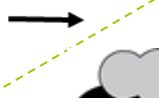

機械器具卸 : 機械設備の需要は弱含む見通し

<p>現 況</p>	<p>自動車関連メーカーを中心に機械設備の需要は底堅く推移した。大規模な生産ラインの新增設は一部にとどまっているが、人手不足に対応するロボット導入の動きなど、自動化のニーズは多かった。また、気温の高い日が続いた影響から、例年と比べ空調機器（エアコン）の受注が増加する先もみられた。工具類など消耗品は、自動車関連メーカーを中心に安定していた。電設資材は、公共施設や製造業の拠点整備などの大型案件が少なく受注競争が激化していることから、収益面は厳しい状況が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>  	<p>設備投資の一巡、先行きへの不透明感などから、機械設備の需要は弱含む見通し。政府の追加的な投資促進策の募集が始まるが、予算枠にも限りがあることから、全体を押し上げるには至らないとみられる。工具類に関しては、自動車関連メーカーを中心に安定して推移する見込み。電設資材については、大型案件も少なくなっていることから、厳しい競争環境は続くとみられる。太陽光発電設備に関しては、電力の買取価格の引き下げにより産業用の新規案件が減っている中、個人用住宅での利用増加が期待される。</p>


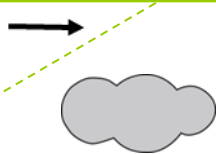
大型小売 : 冬物商品に期待するも、買い控えが懸念される

<p>現 況</p>	<p>百貨店は、梅雨明けが例年より遅かったことに加え、相次ぐ台風の上陸が客足に影響を及ぼし、特に衣料品の苦戦が続いた。食料品は、中元ギフトは前年並みで推移したほか、物産展などの売り上げは堅調だったものの、食料品全般では振るわない状況が続いた。スーパーは、来店客数の減少や、天候不順などにより生鮮食品の価格が安定しなかったことから、食料品の売り上げが伸び悩んだ。また、低価格志向の強まりや競合店間の価格競争などにより、厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>  	<p>百貨店は、冬のセールや年末商戦などに向けて催事を強化するとみられ、食料品の売り上げは前年並みに推移する見通し。一方、衣料品は依然として厳しい状況にあり、売り上げの低迷が予想される。スーパーは、鍋物食材など冬の季節商品は堅調な推移が見込まれるが、天候不順などにより生鮮食品の価格が大きく上昇すれば、買い控えなど売り上げへの影響が懸念される。また、低価格志向や競合店間の競争は今後も続くことが予想され、収益面の厳しさは変わらない見通し。</p>


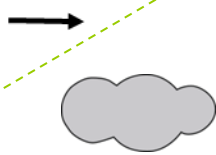
自動車販売 : 新型車効果は限定的で、販売台数は伸び悩む見通し

<p>現 況</p>	<p>消費増税再延期により駆け込み需要もなく、販売台数は伸び悩んだ。普通車は、低燃費車を中心に堅調で、小型車は小型ミニバンなどの一部人気車種が販売をけん引したものの、その他の車種が低調で、全体の販売台数は前年をやや下回った。軽自動車は、一部の車種が堅調に推移したものの、小型車との競合や、燃費不正問題による消費者離れなどが影響し、低調に推移した。中古車は、小型で低燃費の車種を中心に前年並みの販売台数となった。輸入車は、比較的低価格な車種や環境に配慮した車種の販売が堅調で、前年を上回る販売台数となった。</p>
	
<p>見 通 し</p>  	<p>普通車は、一部メーカーで自動運転技術を搭載した新型車の投入や主力車種のモデルチェンジを予定するも、業界全体を押し上げる力は乏しく、前年並みで推移する見通し。軽自動車は、燃費不正問題の影響が続き、販売台数は低調に推移する見込み。中古車は、売れ筋の低燃費車に加え、SUVやミニバンの販売を強化し前年並みの販売台数を見込む。輸入車は、主力車のモデルチェンジの予定は少ないが、ブランド力を活かし、比較的低価格な車種の販売促進や国産車との差別化を図り、堅調に推移するとみられる。</p>


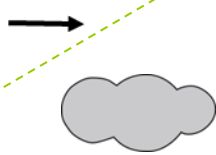
公共工事 : インフラ整備は増加するものの、全体の工事量は弱含む見通し

<p>現況</p>	<p>リニア関連の工事用道路の整備が始まったほか、NEXCO 3社による高速道路の大規模更新・修繕事業である「高速道路リニューアルプロジェクト」が本格的に始動したことにより、官公庁から発注される工事量は前期と同水準を維持した。発注者別にみると、国では、中部横断自動車道などインフラ整備が多く発注された。県や市町村では、県立大学後町キャンパスや給食センターなど学校関連の工事が目立った。資材価格は依然として高値圏にあることに加え、南信地域では人手不足の深刻化から労務費が上昇し、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>南信地域におけるリニア関連の工事用道路の整備や、「高速道路リニューアルプロジェクト」による更新・修繕事業など、インフラ関連で豊富な工事が見込まれる。しかし、例年冬季は工事量が減る傾向にあることから、前期に比べ弱含む見通し。現場代理人など特定業種の人手不足については改善の見込みは無く、労務費上昇に加えて応札の見送りが生じる懸念がある。資材価格も高値圏で推移することが予想されるため、依然として収益環境は厳しさが続く見通し。</p>
	


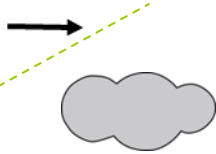
民間工事 : 建設投資は小売業を中心に堅調、収益環境では厳しさが残る

<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、小売りや福祉業界を中心に堅調であった。製造業は、これまで慎重な姿勢が続いていたが、足元では持ち直しの動きがみられる。新設住宅は、消費増税が先延ばしになったことにより駆け込み需要は無かったものの、良好な金利環境を背景に受注量に底堅さがみられた。相続税の節税策として賃貸住宅の建設需要は高く、受注量は前期に引き続き堅調に推移した。労務費、資材価格は依然として高値圏にあり、収益を圧迫した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、大手スーパーなど小売業の大型工事が複数予定されており、非製造業を中心に堅調な動きになるとみられる。新設住宅については、北信・中信地域で大型分譲マンションの着工が予定されているほか、良好な金利環境が続くとみられることから、受注量は底堅い見通し。しかし、建設投資も新設住宅も大型工事が多いため、恩恵を受ける事業者は少ないとみられる。また、労務費や資材価格は今後も高値圏で推移するとみられ、業界全体としては収益面で厳しさが続く見込み。</p>
	


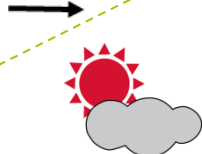
旅客 : 観光需要やや薄れる

<p>現況</p>	<p>天候に恵まれた7、8月は、大規模イベント開催や「山の日」、「真田丸」等の集客効果があり、外国人観光客の入込みも堅調で、北陸新幹線、鉄道（JR・私鉄）、高速バス利用はおおむね好調だった。一方、8月下旬以降は天候不順で観光客数が伸びず、期前半の好調を打ち消した。また、県外の学生の合宿目的を中心とした貸切バス受注は前年を下回り、軽井沢バス事故の余波が続いているとみられる。タクシーは一部地域で「山の日」特需がみられたものの、総じては地元客の利用控えが続き、イベント開催時の利用も伸び悩んだ。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>これまで好調だった観光需要は徐々に薄れて、鉄道、バスともに利用は総じて前年をやや下回るとみられる。「真田丸」がけん引してきた高速バス利用等は前年並みとなる見通し。秋季行楽シーズンを迎える中、山岳観光では外国人観光客のバス、鉄道利用が底堅く推移するも、本格的なスキーシーズンまでは高速バス、貸切バスの予約は一服する。バス、タクシーとも燃料価格は安定推移すると見込むが、不足するドライバー確保のための人件費上昇が収益を押し下げる懸念がある。タクシーの利用減少は続くと思われる。</p>
	

貨物 : 貨物量は横ばいも、人材の確保が課題

<p>現 況</p>	<p>品目ごとにばらつきはあるものの、貨物量全体としては前期並みとなった。自動車部品は底堅い動きとなった。建設資材、機械関連は安定した推移となった。飲料は増産により増加、食料品では味噌が増加した。人材不足は深刻であるが、採用活動をしていても十分確保できていない。また、ドライバーの拘束時間規制により輸送単価の低い短距離運送が増加したことが収益を押し下げた。一方、燃料価格は低位安定しており、引き続き収益を下支えした。</p>
	<p>品目ごとにばらつきはあるものの、貨物量全体としては前期並みとなった。自動車部品は底堅い動きとなった。建設資材、機械関連は安定した推移となった。飲料は増産により増加、食料品では味噌が増加した。人材不足は深刻であるが、採用活動をしていても十分確保できていない。また、ドライバーの拘束時間規制により輸送単価の低い短距離運送が増加したことが収益を押し下げた。一方、燃料価格は低位安定しており、引き続き収益を下支えした。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は横ばいとなる見通し。自動車部品は引き続き底堅く、建設資材はリニア関連工事の本格化までは時間を要することから増加は見込めず、機械関連も横ばいが見込まれる。食料品は、飲料は例年並みだが、味噌は需要期を迎えることから若干の増加が期待される。人材不足の状況は変わらず、既存従業員の定着率の低さも課題となる。受注単価は維持されているため、人繰りは苦しいながらも一定の収益は確保される見通し。</p>
	<p>全体の貨物量は横ばいとなる見通し。自動車部品は引き続き底堅く、建設資材はリニア関連工事の本格化までは時間を要することから増加は見込めず、機械関連も横ばいが見込まれる。食料品は、飲料は例年並みだが、味噌は需要期を迎えることから若干の増加が期待される。人材不足の状況は変わらず、既存従業員の定着率の低さも課題となる。受注単価は維持されているため、人繰りは苦しいながらも一定の収益は確保される見通し。</p>

ホテル・旅館 : 真田丸効果は落ち着くも、引き続き堅調な宿泊利用を見込む

<p>現 況</p>	<p>ビジネス客による宿泊利用は都市部を中心に堅調に推移した。観光客は夏季行楽シーズンを迎え、前年並みの利用となった。天候に比較的恵まれた7、8月は個人客・団体客ともに順調だったが、9月は祝日の日並びが悪かったことに加えて、台風など天候不順の影響を受け、利用が伸び悩んだ地域もみられた。上田を中心とする「真田丸」の関係地域では、個人客・団体客による利用が引き続き好調を維持した。中信地域では、「山の日」のイベント等に伴う利用もみられた。</p>
	<p>ビジネス客による宿泊利用は都市部を中心に堅調に推移した。観光客は夏季行楽シーズンを迎え、前年並みの利用となった。天候に比較的恵まれた7、8月は個人客・団体客ともに順調だったが、9月は祝日の日並びが悪かったことに加えて、台風など天候不順の影響を受け、利用が伸び悩んだ地域もみられた。上田を中心とする「真田丸」の関係地域では、個人客・団体客による利用が引き続き好調を維持した。中信地域では、「山の日」のイベント等に伴う利用もみられた。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>観光客による利用は都市部・観光地ともに順調に推移する見通し。「真田丸」の集客効果も落ち着きつつあるものの、関係地域では引き続き個人客を中心に堅調な利用が見込まれる。ブライダル部門は需要期を迎え、例年並みの件数を確保する見込み。宴会部門は年末に向け忘年会等による堅調な利用に期待する。都市部のホテルはビジネス客を中心に堅調に推移する見込みだが、新規開業に伴い、競合が増す地域もみられる。また、天候不順により青果など食材価格が上昇しており、収益面への影響が懸念される。</p>
	<p>観光客による利用は都市部・観光地ともに順調に推移する見通し。「真田丸」の集客効果も落ち着きつつあるものの、関係地域では引き続き個人客を中心に堅調な利用が見込まれる。ブライダル部門は需要期を迎え、例年並みの件数を確保する見込み。宴会部門は年末に向け忘年会等による堅調な利用に期待する。都市部のホテルはビジネス客を中心に堅調に推移する見込みだが、新規開業に伴い、競合が増す地域もみられる。また、天候不順により青果など食材価格が上昇しており、収益面への影響が懸念される。</p>